

日本のイヌワシと特異な環境

布野隆之研究員

イヌワシという絶滅危惧種をご存じでしょうか。イヌワシは、全長80センチ、翼を開くと2メートルにも達する大型のワシです。その大きさは、皆さんのご家庭にある「畳」とほぼ同一です。



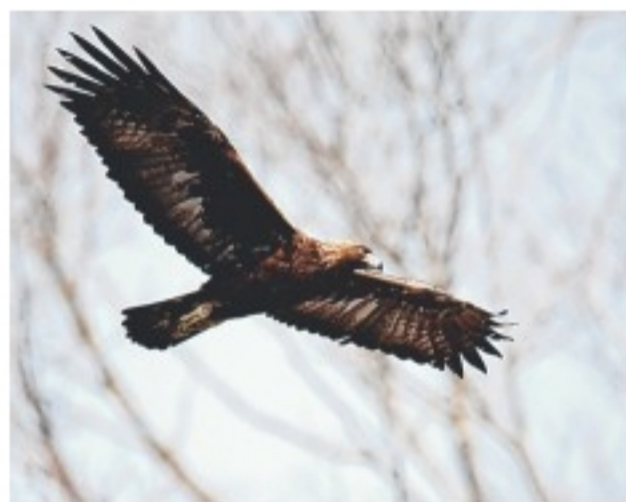
イヌワシの主な生息環境は、乾燥した草原です。乾燥した草原は、ノウサギなどの獲物が少ない環境で

す。従って、イヌワシにとって過酷な環境と思えますが、実は、そうではありません。イヌワシは長い翼を使い、グライダーのように風に乗るため、飛行中にエネルギーをほとんど消費しません。また、草原で発生する熱上昇気流を使い、い

ひとはく
研究員
だより

つまでも飛ぶことができます。つまり、省エネをしながら飛び続け、確実に獲物を捕らえているのです。このように、草原はイヌワシ

にとって住みやすい環境です。世界の多くのイヌワシは草原に生息するため、「草原のイヌワシ」と呼ばれて



います。

一方、草原ではない環境にもイヌワシは生息します。その代表が日本のイヌ



イヌワシが暮らす二つの環境。乾燥した草原(右)と樹木の密集した森林

ワシです。日本のイヌワシは、主に森林に分布することから「森林のイヌワシ」と呼ばれています。森林は、草原に比べて多くの獲物が生息しています。このため、イヌワシにとって住みやす

す。

それでは、イヌワシはどこで獲物を見つけるのでしょうか？ 近年の研究により、その答えが分かってきました。森林では、老齢となった木々が倒壊して「林冠ギャップ」という空間が形成されます。林冠ギャップは、森林の中で唯一、上空から地上部を見通せる場所です。イヌワシは林冠ギャップを巧みに利用し、獲物を見つけているのです。

残念ながら、日本では野生のコウノトリとトキが絶滅しました。イヌワシが第2のコウノトリやトキとならないよう、絶滅を回避することが必要です。そのため、老齢木を育む豊かな森林を守り、林冠ギャップという特異な環境を生産し続けることが大切です。



①大空を舞うイヌワシ
②大木の倒壊によって形成された「林冠ギャップ」

い環境のように思えますが、そうではありません。イヌワシは、上空から地上の獲物を探すため、樹木の密集した森林では獲物を見つけることが困難なので

残念ながら、日本では野生のコウノトリとトキが絶滅しました。イヌワシが第2のコウノトリやトキとならないよう、絶滅を回避することが必要です。そのため、老齢木を育む豊かな森林を守り、林冠ギャップという特異な環境を生産し続けることが大切です。